

司式:大塚 明子
奏楽:橋本恵美子

前奏:「我を憐れみ給え、おお主なる神よ」(J.S. バッハ)

招詞:ヤコブよ、あなたを創造された主は イスラエルよ、あなたを造られた主は 今、こう言われる。恐れるな、わたしはあなたを贖う。あなたはわたしのもの。わたしはあなたの名を呼ぶ。(イザ43:1)

讚美歌 16「われらの主こそは」

交読詩編 19 編

- 01 【指揮者によって。賛歌。ダビデの詩。】
- 02 天は神の栄光を物語り/大空は御手の業を示す。
- 03 昼は昼に語り伝え/夜は夜に知識を送る。
- 04 話すことも、語ることもなく/声は聞こえなくても
- 05 その響きは全地に/その言葉は世界の果てに向かう。そこに、神は太陽の幕屋を設けられた。
- 06 太陽は、花婿が天蓋から出るように/勇士が喜び勇んで道进行るように
- 07 天の果てを出で立ち/天の果てを目指して行く。その熱から隠れうるものはない。
- 08 主の律法は完全で、魂を生き返らせ/主の定めは真実で、無知な人に知恵を与える。
- 09 主の命令はまっすぐで、心に喜びを与え/主の戒めは清らかで、目に光を与える。
- 10 主への畏れは清く、いつまでも続き/主の裁きはまことで、ことごとく正しい。
- 11 金にまさり、多くの純金にまさって望ましく/蜜よりも、蜂の巣の滴りよりも甘い。
- 12 あなたの僕はそれらのことを熟慮し/それらを守って大きな報いを受けます。
- 13 知らずに犯した過ち、隠れた罪から/どうかわたしを清めてください。
- 14 あなたの僕を驕りから引き離し/支配されないようにしてください。そうすれば、重い背きの罪から清められ/わたしは完全になるでしょう。
- 15 どうか、わたしの口の言葉が御旨にかなひ/心の思いが御前に置かれますように。主よ、わたしの岩、わたしの贖い主よ。

朗読聖書①申命記 8:1-10 ◆神の賜る良い土地

- 01 今日、わたしが命じる戒めをすべて忠実に守りなさい。そうすれば、あなたたちは命を得、その数は増え、主が導かれたこの四十年の荒野の旅を思い起こしなさい。こうして主はあなたを苦しめて試し、あなたの心にあること、すなわち御自分の戒めを守るかどうかを知らうとされた。
- 02 主はあなたを苦しめ、飢えさせ、あなたも先祖も味わったことのないマナを食べさせられた。人はパンだけで生きるのではなく、人は主の口から出るすべての言葉によって生きることをあなたに知らせるためであった。
- 03 この四十年の間、あなたのまとう着物は古びず、足がはれることもなかった。
- 04 あなたは、人が自分の子を訓練するように、あなたの神、主があなたを訓練されることを心に留めなさい。05 あなたの神、主の戒めを守り、主の道歩み、彼を畏れなさい。
- 06 あなたの神、主はあなたを良い土地に導き入れようとしておられる。それは、平野にも山にも川が流れ、泉が湧き、地下水が溢れる土地、07 小麦、大麦、ぶどう、いちじく、ざくろが実る土地、オリーブの木と蜜のある土地である。08 不自由なくパンを食べることができ、何一つ欠けることのない土地であり、石は鉄を含み、山からは銅が採れる土地である。09 あなたは食べて満足し、良い土地を与えてくださったことを思って、あなたの神、主をたたえなさい。

- 09 だから、こう祈りなさい。『天におられるわたしたちの父よ、御名が崇められますように。10 御国が来ますように。御心が行われますように、天におけるように地の上にも。11 わたしたちに必要な糧を今日与えてください。12 わたしたちの負目を赦してください、わたしたちも自分に負目のある人を赦しましたように。13 わたしたちを誘惑に遭わせず、悪い者から救ってください。』14 もし人の過ちを赦すなら、あなたがたの天の父もあなたがたの過ちをお赦しになる。15 しかし、もし人を赦さないなら、あなたがたの父もあなたがたの過ちをお赦しにならない。』

祈祷

あめつち
天地の創造主にして我らの主イエスキリストの父なる神さま、大いなる愛をもって、主イエスの十字架による贖いを信じる私たちにも、“父よ”と呼びかけることをお許しくださった、その憐れみに感謝しつつ、祈りを献げます。

私たちはこの世にあって、与えられた夫々の務めに励む時、“神さまから喜ばれる者でありたい”との思いを抱きつつも、多忙な毎日の中で自らの思いを優先して、時には故意に、またある時は自覚もなしに、周囲の人々を傷つけてしまう愚かな者であることを告白し懺悔致します。そのような私たちが神さま、あなたは今日も御前に呼び出してくださいました、教会集い、あるいはライブ配信を通して、尊い聖名を賛美し、御言葉を頂く礼拝に導いてくださった恵みに心より感謝申し上げます。

過ぐる週の2月11日は『信教の自由を守る日』とされ、日本各地で天皇制や信教の自由について考える様々な勉強会や講演会などが開催されました。今、日本国憲法で保障されている信教の自由、政教分離の原則の大切さを改めて自覚し、明治憲法の時代に、国家神道の祭祀である天皇を現人神として拝礼した過ちを忘れることなく、イエス・キリストをこの世にお遣わしになったあなただけが“唯一の神”であるという信仰に固く立って、再び“わたしの他に何者をも神としてはならない”と命じられた戒めに背くことのないよう、私たちが絶えず守り、導いてください。

世界各地で急速に進む『開発』という名の自然の破壊と経済活動が一因であると言われる気候変動、早魃や洪水、山火事などの災害の報道に不安を覚え、心を痛めつつも、問題の複雑さに何から始めたらよいのか分からず、ただ立ち尽くす私たちに憐れんでください。天地創造の時、神さまが造られたものをご覧になって、“はなはだ良かった”と言われた自然が、今、人間の限らない欲望の為に、急激に破壊されつつあることを恐れます。持てるもの、持てる国に住む人々だけが豊かな生活を楽しむような世界の中で、神さまの所有物であるこの世の物全てを分かちあって、隣人と共に生きる生き方を、私たち、そして世界中の為政者が選び取っていくことができますよう導いてください。使徒たちの時代のような“心を一にし、思いを一にし”一切のものを共有にしていた生活は、今の私たちにはできません。しかし、あなたから与えられた“盗んではならない、貪ってはならない”との教えを心に刻み、私たちが争いの無い平和な世界を実現して行くための働きの人として用いてください。

少子化、高齢化の社会の中で、教会でも多くの問題に取り組む必要に迫られています。本日、礼拝後、そして来週の2日間に亘って行われる定期教会総会において、次年度の教会の基本方針、新たな牧師の招聘、長老選挙と次年度の予算など、重要なことが話し合われる予定です。それら大切な議題に対して責任を担い、準備して下さった牧師、長老方のお働きを神さまが労ってください。礼拝後に開かれる総会において、聖霊の導きが豊かにございますようにと祈ります。そして、ここに集う教会員が共に心

を合わせて、神さまが夫々にお与えくださった賜物を生かし、喜びをもって互いに“世のための教会”の“世にある教会”の一員として歩みを進めていくことができますように。

本当に力弱く、知恵に乏しい私たちですが、熱心に祈り求める時、神さまからの知恵が与えられると信じます。一人ひとりが希望をもって、神さまの働きの担い手となることができますように、力を与えてください。

本日の礼拝を覚えながらも、病気や怪我のために、また仕事のため、日々の労働の疲れのため、高齢のため、育児や家族の介護のためなど、様々な事情によって礼拝に出席できない方々がいらっしゃると思います。どうぞ神さまが皆さまの傍らで慰め、支え、そして癒しを豊かにお与えてくださいますように。

一月初旬の骨折により療養を余儀なくされている鮎川健一牧師をあなたの御力によって癒し強めてください。鮎川牧師の信濃町教会での任期の締め括りの日々を、共に祈り、共に励まし合いつつ、恵みの時として過ごして行くことができますよう、先生の一日も早いご回復と復帰を心からお祈りいたします。

本日の説教者を感謝致します。佃牧師が聖霊の導きを豊かに受けて、神さまの御言葉をとりついでくださいますように。耳を傾ける私たちの心に、御言葉の種が根を張り豊かな実りを刈り取ることができますように。

この週も、祈りつつ歩む私たちを力強く導いてください。

この祈り、本日世界中で行われる礼拝で献げられる祈りに合わせて、主イエス・キリストの聖名によって御前にお献げ致します。アーメン。

讚美歌 56「主よ、いのちのパンをさき」

説教：命のパンを求めて」

佃 雅之

今朝も『マタイによる福音書』に記されています『主の祈り』から、御言葉に聞きます。

主イエス・キリストが、祈る時には“こう祈りなさい”と教えてくださった主の祈りは、“父よ、”という呼びかけから始まりました。そして、“あなたの御名が崇められ、あなたの支配が実現し、あなたのご意思がこの地上でも為されますように”と、神のための祈りが表されていました。キリストが教えた『祈り』の基本姿勢は、“神の名を呼び神に祈る”こと、そして、“祈る言葉に頼るのではなく、神を信頼する”、ということでありました。“天におられる父よ！と祈りなさい。”と言われたのは、神が天から私たちを見てくださっていることを覚える、そして、祈る私たちも、この地上に生き、生かさねながら天を仰ぎ見る、天と同じように“この地上でも神の御心が実現しますように”と望むことを意味しています。

主の祈りは、六つの祈りで構成されています。初めの三つが“神のために祈る”ものであり、その後の三つ、“私たちのための祈り”が続きます。神と私たち、天と地を結びつけるのが主の祈りです。今朝は、私たちのための祈りとして、第一番目に置かれた 11 節の、「わたしたちに必要な糧を今日与えてください」、この言葉に集中して御言葉を味わいたいと思います。

「必要な」と訳されておりますのは、「日ごとの」、あるいは、「どうしても必要だ」、という意味のギリシャ語(ἐπιούσιος Εἰπουσις)が使われています。ですから、私たちは普段、“我らの日用の糧を今日も与え給え”と祈るのです。次に、「糧」と訳されているのは、他の箇所では「パン」と訳される言葉(ἄρτος アルトス)です。このことを踏まえて原文を訳すと、“私たちに、日ごとの、どうしても必要なパンを、今日与えてください、”となります。“今日、どうしても必要なパン”というのは、何を指し示す言葉でしょうか。私たちが日々生きて行くためには、食べ物が必要

です。今日、ここに集められた私たちの中で、今日の食べ物にも困っているという方は、おそらく、おられないと思います。では、この「必要な糧」というのは、食べ物のパンのことだけを言っているのでしょうか。そもそも、聖書の言う「パン」とは何か。そのことを知るためには旧約聖書を読まなければなりません。

今日は『主の祈り』と共に、申命記の 8 章が読まれました。2 節に「あなたの神、主が導かれたこの四十年の荒れ野の旅を思い起こしなさい。」と書かれています。神の民イスラエルは、奴隷とされていたエジプトから神の導きによって脱出することができました。しかし、エジプトを脱出したその先に待っていたのは 40 年にわたる荒れ野の旅です。この出来事は、出エジプト記の 16 章に詳しく書かれています。荒れ野で、最初に出遭う試練は“生きるために何を食べるか”ということでした。荒れ野を彷徨うイスラエルの民は、生き延びるために食べものを求めて神に不平不満を言い始めます。すると神が天から食べ物を与えられたのです。イスラエルの人たちは、この食べ物を、「マナ」と名付けました。マナは非常に不思議な食べ物で、必要以上に集めたり蓄えたりすると腐ってしまうという特徴を持っています。ですから今日必要な分だけを食べることができるのがこのマナの特徴です。『マタイによる福音書』に記されています「主の祈り」の言葉を注意深く読んでみると、“今日与えてください”と書かれています。“今日”必要な物、“今日”なくてはならない物、“今日”という言葉に、力点が置かれています。キリストは神がマナによってイスラエルの民の命を救い守られことを思い起こして、“今日”を生きるための言葉として、この祈りを教えられたのです。“今日”という日に感謝する、“今日”という日に最善を尽くす、そのために、“今日”必要な食べ物は、主なる神が与えてくださる。私たちの命は、神によって与えられ、神によって支えられているという信仰を神はマナと共に与えられたということであり

ます。私たちは自分の命が自分の思い通りになるものではないことを認めなければいけません。今、私たちが生きているということは決して当たり前のことではなく、当然の権利でもなく、神の恵みなのであります。神は、私たちの肉体をととても大切にしてください。それはなぜか。私たちがこの世で神の御用のために生きて働くために必要とされているからです。

イスラエルの民は荒れ野で空腹という誘惑に会いました。この出来事とよく似ているのがキリストが伝道活動を始められる前、悪魔から誘惑を受けるために荒れ野に行かれた時の話です。『マタイによる福音書』では 4 章に書かれています。ここでもパンが重要な問題として取り上げられています。悪魔はキリストにこう言いました。あなたが「神の子なら、これらの石がパンになるように命じたらどうだ。」(マタ4:3)、キリストが地上に生きた時代も、その日の糧がない人がたくさんいたのです。“飢えている人たちが無数にいる、あなたが神の子として、力を発揮して、石ころをパンに変えてあげれば、問題は解決できるのではないか、それが神の正義なのではないか、それが、今、空腹に苦しみ、嘆いている人に与えるべき救いなのではないか”、これが悪魔の誘いでした。悪魔の誘いに対して、キリストは、「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる。」と答えられています。先ほど触れました申命記 8:3 の後半に記されている言葉を引用されています。ここで、キリストは、“パンはなくてもよい”と主張したわけではありません。私たちは、たとえ食べる物に困ってはいなくても、心が渇く、魂が飢えるということがあります。“私たちが生きていくためには、体のためのパンだけではなく、魂のためのパンが必要だ”ということです。私たち人間

にとって食べ物、お腹を満たすためだけのものではありません。キリストが弟子たちをはじめ、様々な人々と積極的に食事を共にされたことを聖書は数多く取り上げています。聖書において“食べる”ということは、“出来事が起こっている、その時そこで何が起こっている”ことを意味しているのです。聖書が食事の場面を数多く取り扱うのはそのためです。今日読まれた申命記が示す通り、天から与えられたマナはお腹を満たすためだけのものではなく、私たち人間が神に造られたものであり、神に養われる神に支えられて生きているものであることを知るための出来事であったのです。神は、マナを通して、“人はパンだけで生きるのではなく、主の口から出る全ての言葉によって生きる”ことを教えられたのです。私たちには、“御言葉もまた毎日にどうしても必要なパンなのである”、ということなのです。“私たちに必要な糧を今日与えてください”というこの祈りの言葉は神の言葉を求める祈りでもあるのです。

神の言葉を求めた私たちがすべきことが何でありましょう。それは“神の言葉を聞く”ということなのです。信仰は神の言葉を聞くことから始まるからです。今日も、主なる神が全てを整えて私たちを礼拝へと招いてくださいました。神は私たちに語られたいことがあるからです。神が私たちに語ってくださるのですから、その時、私たちがすべきことは心を静めて神の語ってくださる言葉に集中するというのです。しかし現実はどうでしょう。私たちは、“御言葉をください”と言いながら、神の言葉を聞くに相応しく心を整えることが、今、出来ているのでしょうか。“あれをしよう”、“これをしなければ”というような、自分の判断や思いを一旦下ろす、止めることが出来ているのでしょうか。キリストの言葉で言えば、私たちには自分を捨てることが求められています。自分を空っぽにして自分を捨てた時に主ご自身の御言葉が私たちの心に染み込んでくるからです。私たちは日々の生活において、教会生活にあっても様々な思いに囚われ心を頑なにすることがあるものです。“私には、色々な悩み事がある”、“私には心配なことがたくさんある”、あるいは、“私には怒りや不満がある”、“どうしてこうなるんだ、こうならなければおかしい”と強い欲求が自分の内に満ちてしまっている人がおられます。いずれにしても、心が、“私は…、私は…、私は…”と、私に支配されているまでは御言葉が心に染み込んでくることはないでしょう。その頑な心を捨てて空っぽにしないではありません。

私たちの主は、生きておられ常に語ってくださっています。“主の言葉が聞こえない、御心が分からない”という時もあるかもしれません。それでも、神は常に語っておられます。問題は私たちの側にあるのです。私たちが自分を捨てて聞く姿勢を整えることが必要なのです。

今日は、教会総会です。総会はこの礼拝から既に始まっています。共に礼拝を献げ御言葉に聞くことを欠かすことはできません。教師人事、長老選挙をはじめ、一つひとつの議事に込められた私たちの願いがあります。総会を通して主が何を私たちの教会に望んでおられるのか、総会においては、お互いの意見に耳を傾けるだけではなく、御心に聞く姿勢がとても大切です。主が望まれていることは何か、私たちは神が教会に望まれていることを行ない、御心を実現するために、今日、ここに集められています。礼拝に与り、総会の議案に向かおうとする私たちに、キリストは必ず語りかけてくださいます。

今日の御言葉にあります「必要な糧」という言葉の中には、人間が本当に必要としている全ての物が含まれています。『ヨハネによる福音書』6章には、「イエスは命のパン」と小見出しの付けられた箇所があります。27節にこう書かれ

ています。「朽ちる食べ物のためではなく、いつまでも、なくならないで、永遠の命に至る食べ物のために働きなさい。これこそ、人の子があなた方に与える食べ物である。」ここで、弟子たちは、既に触れました出エジプトの出来事を持ち出して、「わたしたちの先祖は、荒野でマナを食べた。『天からのパンを彼らに与えて食べさせた』と書いてある」と言います。「すると、キリストは語りました。“はっきり言っておく。モーセが天からのパンをあなたがたに与えたのではなく、わたしの父が天からのまことのパンをお与えになる。神のパンは、天から降って来て、世に命を与えるものである”」。

神はイスラエルの民を見捨てることなく、見放すことなく、天からマナを降らせ、養い、支えてくださいました。聖なる民としてくださった神の選びの恵みは40年間変わることがありませんでした。イスラエルの民の切実な祈りに神は応え続けて下さったのです。

私たちはどうでしょう。毎日、毎週、“我らの日用の糧を今日も与えたまえ”と祈りながら何を求めているでしょう。私たちが生かす本当の食べ物、明日に向かって踏み出す勇気を与える食べ物、それはなんでしょうか。キリストの弟子たちは、“主よ、そのパンをいつも私たちにください”と言っています。キリストは弟子たちの願いに応じてこう言われます。“わたしが、命のパンである。わたしのもとに来る者は、決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決して渴くことがない。(ヨハ6:35)” 私たちに生きる勇気と希望を与える真の命のパンがここにあります。私たちは、御言葉を食べるのです。命のパンであるキリストを戴いて生きる者たちであります。主とその霊の言葉こそ命です。私たちに必要な物を神をご存知です。そして、必要な時に必要な分だけの命のパンを一人ひとりの求めに応じて与えてくださいます。私たちは思い悩むことなく、素直に神が下さる命のパンを戴けばいいのです。私たちの内にキリストがおられます。御言葉そのものが、私たちの内に生きてくださっています。絶対に見放すことなく離れることはありません。私たちはキリストと共に、天におられる父なる神に、“私たちに必要な糧を今日与えてください”と祈りながら、命のパンを求めて歩み行きたいと思えます。

お祈り致します。

聖なる神、あなたが『主の祈り』によって、私たちに真の命の糧が何であるかを教えてくださった恵みに感謝致します。あなたの力と憐れに満ちた御言葉は全地に響いています。あなたは惜しみなく、私たちに祝福を注いでくださっています。あなたが御言葉によって私たちを養い、支え、守り、導いてくださっている恵みを覚えます。主よ、どうぞ、私たち一人ひとりが、あなたの恵みを愛する人たちと分かち合いながら、命のパンを求めて歩む者とならせてください。

主イエス・キリストの聖名によって祈ります。アーメン。

讃美歌:467「われらを導く」

献金・感謝(大隈道雄)・主の祈り(讃美歌21 93-5A)

天にいらっしやいます父の神さま、本日も、私たちを礼拝に招いてくださりましてありがとうございます。今日は講壇から、あなたの御言葉が、パンとして、糧として、私たちに豊かに与えられておられますことを改めて教えられました。どうか、このことを噛み締めて夫々の生活の場へと送り出されていきますように。そして、あなたの言葉を、あなたの福音を、この世に、この世を照らす光として伝えていくことができますように。

あなたの御国が、どうぞこの世にもたらされますように、私たちが希望をもって歩めるようにしてください。

只今、私たちが、あなたの御用のために用いて頂くべく献金をお献げ致しました。あなたの御用ためにお使いください。

この一週間を、「主の祈り」をもって歩ませてください。「主の祈り」…アーメン。

派遣：讃美歌91「神の恵みゆたかに受け」

祝福：主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがた一同と共にあるように。アーメン。

報告：(1)鮎川牧師ご自身による近況報告。(2)定期教会総会次第の案内。

後奏：「おお汝、まことなる神よ」(J.S. バッハ)